

「家がいいね」 第178号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019.3.8

夕焼けをみるように

ふだんは「疲れていませんか」「大丈夫ですか」と、相手を気遣う生業をしています。経験豊富な上手の方がいて、「先生、疲れた顔をしているよ」と逆にこちらを労(いたわ)ってくださることも。

私、昭和25(1950)年3月生まれの話。戦争が終わり5年、皆が一息ついた時期でした。親たちは、明日の朝を無事に迎えられるか分らない経験がまだ覚めやらぬ時です。子どもに対し、楽に生きていてイイよと放し飼いに近かったようです。暮らし向きは楽でなくとも穏やかな夕暮れを迎えたのでしょね。

経済戦争に再び戻るまでの束の間の安寧でした。「団塊世代は競争が」と後から称されていますが、多くて楽しい子ども時代でした。私は山間に育ち日没を水平に見た覚えはありません。それでも、

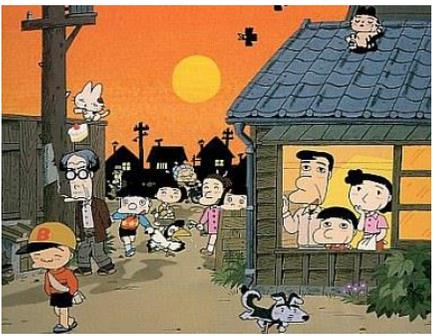


このように明日もきつと続くと思ってた方を過ごした生活感覚とは、楽しい経験に違いありません。

幸せだったと思うこと

居ていいよと認められるのは、言葉で言われなくても幸せです。走り回るだけの小さい子も遊びの輪の中に受け入れられました。遊び道具も買うわけではなく、何かの借り物で想像を逞しくして使っていました。私の家には近所の一人暮らしの老婆が常に顔を出し、私はこっそり老婆の借家のコタツに潜り込み一人過(こ)すのを、許してもらっていました。

共に暮らす幸せとは、実に曖昧で寛容なものだったのかなと、今にして思い起こすのです。



カルテからつぶやき 8

がんとの付き合い方も色々だと教えられます。がんの原因は、体外からやってくる病原体ではなく、自分の身体の細胞から生まれた不死の細胞体だから厄介なのです。いわば身内なのでね。

「私のがん子ちゃんです」と、乳がんの腫瘍が育つのを、苦笑しながら言われた在宅の患者さんがおられました。その方の事情も聞けばもつとで、適切な手術や抗がん剤の時期が過ぎてしまったからの訪問診療の開始でした。育つ子に乳をやる例えにしては、多過ぎる出血や浸出液でした。

「出来の悪い子を持つと大変や」と、訪問看護師と淡々と傷の処置を続ける横顔が思い出されます。

言祝(ことほ)ぐ

「寿ぐ」とも言います。この言葉が使われなくなりました。思っていたことは一緒だねと共に笑い気持ちを通わすのが「言祝ぐ」と私は考えます。



今の笑いの場面は屈指しています。TVのお笑いの影響でしょうか、相手の欠点を突き笑いを誘うような言動がもてはやされます。「イジめる」「ディする」等の侮蔑は当り前と思つ風潮が、若者から広がっているのが心配です。自分のつらさを、ユーモアで笑い飛ばそうという奥ゆかしさもありませんね。

この先の長大な連休期間でのお願い

4月27日(土)まで外来診療

5月7日(火)より再開

在宅患者さんには、計画的に対応します。また臨時の往診などのために待機もしています。ただし、薬局の閉鎖期間もありますので、手持ちの薬が切れないように、ご注意ください。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可